

# 親しい友人関係における 行動の日韓比較

金 柔羅 山崎 瑞紀

日本人大学生 93 名, 韓国人大学生 127 名を対象に, 親しい同性の友人関係における日頃の行動について質問紙調査を実施した。全体として, 日本と韓国では設定したすべての領域で回答傾向に有意差がみられた。具体的には韓国の方が日本よりも, ①友人と様々なものを共有し, 遠慮しない, ②率直に意見を表明する, ③かくしごとや壁がない, ④積極的に相手に関与しようとする, ⑤一緒に行動しようとする, ⑥貸借関係を持つようとする, ⑦スキンシップをとろうとする, といった傾向がみられた。今後は, 調査対象者を増やすとともに, 行動の背景にある意識や価値観の違いについても検討していく必要がある。

キーワード: 友人関係, 日本, 韓国, 文化比較, 異文化理解

## 1 研究目的

友人にどのようなことを期待するか, 友人とどのようなつきあいをするか, は文化によって異なる可能性がある (Adams & Plaut, 2003; 山崎・張, 2009 など)。例えば, 山崎・張 (2009) は質問紙調査を用いて, 日本人大学生と中国人大学生が友人同士のやりとりにおいて様々な行動をどの程度行っているかを比較している。結果として, 中国人大学生は日本人大学生よりも, 友人を経済面, 労力面で頼りにする (貸借関係の保持), 積極的に関与する, 率直に表現する, 他の友人や家族を紹介するなど壁が低い, といった傾向のあることが見出された。また, 上原・鄭・坪井 (2011) は日本, 中国, 台湾の大学生を対象に友人関係に関する質問紙調査を行い, 中国大学生が最も友人との社会的距離が近く, 友人に対して信頼感を持ち, あまり礼儀を気にせず率直な表現をしていること, 全体の傾向としてそうした距離の近さは中国>台湾>日本となっていることを見出している。しかしながら, 日本と韓国の友人関係のあり方については, 文化に関する考察や滞在者の逸話的記録等は見られるものの (金, 2010; 朴, 2008 など), 具体的にどのような次元で異なり, どのような次元で共通しているのか, といった点について実証的に検討した研究はほとんどない。

そこで本研究では, 日本と韓国の友人に対する行動の違いについて質問紙調査を用いて検討する。その際, 「友

人」の中でも「親しい友人」と「それほど親しくない友人」では対象に抱く期待の異なる可能性があるため, 「親しい友人」との関係に焦点を当て, 「親しい同性の友人」と日頃どのように付き合っているか, について検討する。

## 2 方法

### 2.1 被調査者

日本: 横浜市内の私立大学 1 校に通う 93 名 (男性 57 名, 女性 36 名)。平均年齢は 20.0 才 (SD0.87)。  
韓国: ソウル近郊にある龍仁市内の私立大学 1 校に通う 127 名 (男性 61 名, 女性 66 名)。平均年齢は 21.4 才 (SD1.57)。

### 2.2 質問項目

日本人大学生と韓国人大学生の計 6 名を対象とした友人関係に関するインタビュー調査の結果や関連文献 (上原・鄭・坪井, 2011; 山崎・張, 2009 など) をもとに第一著者と第二著者が話し合いながら, 日韓それぞれで特徴的と思われる友人関係維持の 7 つの行動的側面 (「共有・遠慮のない関係 (9 項目)」「率直さ (10 項目)」「かくしごと (壁) のなさ (11 項目)」「積極的関与 (5 項目)」「共行動 (2 項目)」「貸借関係 (8 項目)」「密着 (6 項目)」) について計 51 項目を作成した。日本語で作成した項目をもとにバックトランスレーション法を用いて韓国語版を作成した。調査の際には「親しい同性の友人」との日頃のやりとりを思い浮かべながら回答するように教示した。回答はいずれも, 「あてはまる (5)」～「あてはまらない (1)」の 5 件法で求め, 項目の順序はランダムとした。その他, 性別, 学年, 学部, 年齢, 留学

KIMU Yura

東京都市大学環境情報学部情報メディア学科 2014 年度卒業生  
YAMAZAKI Mizuki

東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科准教授

生であるか否か、育った国、を記入させた。

全体的に親しい友人関係において韓国の方が日本よりも、①友人と様々なものを共有し、遠慮しない（「共有・遠慮のない関係」）、②率直に意見を表明する（「率直さ」）、③個人の境界の垣根が低い（「かくしごとのなさ」）、④積極的に相手に関与しようとする（「積極的関与」）、⑤一緒に行動しようとする（「共行動」）、⑥貸借関係を持つようとする（「貸借関係」）、といった傾向が高く、⑦スキンシップ（「スキンシップ」）に関しては、具体的な行動によって傾向が異なるだろうという仮説を立てた。

### 2.3 実施時期・手続き

日本では2014年11月に、韓国では2014年12月に、いずれも大学の担当教員の協力を得て講義時間の一部を利用して質問紙を配布、実施し、無記名式で回収した。

## 3 結果

より極端、あるいは中立的な回答をしやすいといった評定傾向に文化差の存在する可能性があるため、大石・小宮（2012）を参考に、5件法での回答について1, 2を「1」、3を「3」、4, 5を「3」として3件法に変換し、X2検定を行った。各項目における国別の回答分布（%）、及び検定結果を表1-1、表1-2に示す。全体として、韓国の方が日本よりも、「共有・遠慮のない関係」「率直さ」「かくしごと（壁）のなさ」「積極的関与」「共行動」「貸借関係」「スキンシップ」のすべての領域において、「あてはまる」と回答する傾向が有意に見られた。

「共有・遠慮のない関係」では、友人の許可を得ずに友人の物をもらったり借りたりすることについて、日本では過半数以上の者が「あてはまらない」と回答しており、「あてはまる」とした者は3～25%だったのに対し、韓国では35～49%の者が「あてはまる」と回答していた。ただし、「(6) 友人が買ってきたお菓子を一緒に食べるときは、遠慮して少なめに食べる」では日本人の55%、韓国人の65%が「あてはまる」と回答しているほか、「(44) 約束の時間に遅れたとき、5分ぐらいなら特に謝らない」では両国とも過半数以上の者が「あてはまらない」と答えており、有意差はみられなかった。

また、相手に対する不満や思ったことを伝えたり、関心のあることを尋ねたりするか（「率直さ」）については、日本では「あてはまらない」が多く、抑制する傾向がみられるのに対し、韓国では伝えたり尋ねたりする傾向がみられた。特に「(21) つきあっていく上で、自分と合わないところを相手に伝えて、改善方法を探す」では、日本では59%が「あてはまらない」と回答しており、「あてはまる」は16%であるのに対し、韓国では53%が「あてはまる」と回答していた。ただし、「家族の職業を聞く」「友人の部屋で欲しい物があれば、『頂戴』と言ってみる」

では「あてはまる」と回答した韓国人学生はそれぞれ35%、16%と多くはなく、日本人学生の回答傾向と違いはみられなかった。

「かくしごと（壁）のなさ」では「(16) 友人と約束をするとき、時間がないと言う友人に『何があるの?』等と聞く」「(51) 道で友人に出会ったとき、『どこに行くの?』『なにがあるの?』等と聞く」以外の項目で、過半数以上の日本人学生が「あてはまらない」と回答していた。韓国人学生は日本人学生に比べ、「あてはまる」と回答している者が多く、すべての項目で有意差がみられた。特に、「(42) 互いの家を行き来する」「(46) 自分の家族が抱えている悩みを友人に聞いてもらう」「(47) 新しい友人に以前からの友人を紹介し、一緒に遊ぶ」では、日本では過半数以上が「あてはまらない」としているのに対し、韓国では過半数以上が「あてはまる」と回答していた。

「積極的関与」や「共行動」でもすべての項目で有意差がみられ、「(10) 病気で友人が入院したら、できれば毎日でも見舞う」「(29) ビュッフェで食事をするとき、頼まれなくても友人の分も取ってくる」「(4) 病院や美容室など、自分には用事がなくても友人につきあって一緒に行きあげる」では、日本では過半数以上が「あてはまらない」としているのに対し、韓国では過半数以上が「あてはまる」と回答していた。

「貸借関係」では、日本では友人への奢りやお金を貸す、労力を提供するといった項目で「あてはまらない」とする回答が過半数以上となっていたが、韓国では日本に比べると「あてはまる」とする回答が有意に多くなっていた。「(43) 忙しくて本を買いに行く時間がないとき、代わりに買いに行ってもらおう」では日本では過半数以上が「あてはまらない」と回答しているのに対し、韓国では55%が「あてはまる」と回答していた。ただし、「(39) 友人に何か頼まれたとき、自分にはできないと思ったら、その場で断る」の項目では日本人学生の72%、韓国人学生の62%が「あてはまる」と回答しており、違いはみられなかった。

「スキンシップ」では、「(13) 友人が口を付けて飲んだカップで飲み物を飲む」の項目で両国とも65～66%が「あてはまる」と回答していた以外は、韓国の方がボディタッチなどで「あてはまる」と回答していた。

## 4 考察

全体として、ほぼ仮説を支持する結果が示され、親しい同性の友人関係において日本と韓国では設定したすべての領域で異なる行動がとられていた。具体的には韓国の方が日本よりも、①友人と様々なものを共有し、遠慮しない（「共有・遠慮のない関係」）、②率直に表現する（「率直さ」）、③かくしごとや壁がない（「かくしごと

表 1 - 1 項目ごとの回答分布, X2 検定結果

項目内容		日本 (%)			韓国 (%)			X2 検定
		a	b	c	a	b	c	
共有・遠慮のない関係								
(1)	お店で食事を一緒にするとき、友人の食べ物を「食べていい?」と聞かずに味見する	88	2	10	50	15	35	**
(6)	友人が買ってきたお菓子を一緒に食べるときは、遠慮して少なめに食べる	20	25	55	13	21	65	
(14)	友人のお菓子を、「食べていい?」と聞かずに食べる	83	6	11	46	18	35	**
(20)	友人が持っている飲み物を「飲んでいい?」と聞かずに飲む	92	4	3	49	21	30	**
(26)	「使っていい?」と聞かずに、友人の携帯で写真を撮る	58	17	25	38	13	49	**
(32)	友人の服を気軽に借りて着る	68	17	15	38	18	44	**
(36)	友人の文房具を使うとき、いちいち許可をとらない	84	6	10	43	20	38	**
(40)	友人の家で「テレビをつけていい?」と聞かずに、自分でつけて見る	73	13	14	43	22	35	**
(44)	約束の時間に遅れたとき、5分ぐらいなら特に謝らない	73	11	16	61	15	24	
率直さ								
(2)	友人の着ている服の色がおかしいと思ったら、「おかしい」と言う	46	18	35	24	28	48	**
(7)	相手に対する不満などを率直に言う	44	19	37	23	22	55	**
(15)	A と B どちらの店に行きたいかと友人に聞かれたとき、遠慮して「自分はどちらでもいいよ」と答える	26	26	48	10	20	70	**
(21)	つきあっていく上で、自分と合わないところを相手に伝えて、改善方法を探す	59	25	16	19	28	53	**
(27)	友人の家族の職業を聞く	53	25	23	39	27	35	
(33)	友人の給料を聞く	42	17	41	27	28	46	*
(37)	友人の新しいバッグの値段を聞く	62	12	26	29	27	44	**
(41)	家を訪問したとき、何か食べたい物があれば、「食べたい」と伝える	51	19	30	25	19	56	**
(45)	お金はないが、何か外食したいとき、「何か食べたいな」とねだる	77	13	10	41	25	34	**
(48)	友人の部屋で欲しい物があれば、「頂戴」と言ってみる	75	16	9	69	16	16	
かくしごと (壁) のなさ								
(3)	友人の家のドアの暗証番号を知っている (あるいは合鍵を持っている)	91	3	5	69	17	14	**
(8)	友人の 1 週間のスケジュールを把握している	89	5	5	41	28	31	**
(16)	友人と約束をするとき、時間がないと言う友人に「何があるの?」等と聞く	29	17	54	14	22	64	**
(22)	ポーチや鞆の中身を見せてと言う	83	11	6	50	22	28	**
(28)	友人の前で、中を見るために友人の机の引き出しを開ける	87	8	5	58	28	13	**
(38)	友人に家族の写真を見せて紹介する	66	22	13	22	27	51	**
(42)	互いの家を行き来する	51	18	31	19	19	62	**
(46)	自分の家族が抱えている悩みを友人に聞いてもらう	54	22	25	28	14	57	**
(47)	新しい友人に以前からの友人を紹介し、一緒に遊ぶ	57	19	24	20	20	59	**
(49)	友人がスケジュール帳を開いているときは、中を見る	74	13	13	45	24	31	**
(51)	道で友人に出会ったとき、「どこに行くの?」「なにがあるの?」等と聞く	28	16	56	5	13	83	**
Note. a 「あてはまらない」「ややあてはまらない」、b 「どちらともいえない」、c 「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した者の割合 (%)								

表 1-2 項目ごとの回答分布, X2 検定結果 (続き)

項目内容		日本 (%)			韓国 (%)			X2 検定
		a	b	c	a	b	c	
積極的関与								
(10)	病気で友人が入院したら、できれば毎日でも見舞う	60	28	12	17	31	53	**
(17)	飲み物を買に行くときは、「買ってきて」と言われなくても友人の分も買ってくる	82	13	5	28	27	45	**
(29)	ビュッフェで食事をするとき、頼まれなくても友人の分も取ってくる	77	12	11	16	18	66	**
(23)	友人が欲しがっていたものを店でみつけたら、何でもない日でもプレゼントする	76	12	12	38	35	27	**
(50)	空き時間に気軽に友人に連絡して出て来てもらい、一緒にご飯を食べたり、お喋りをしたりする	47	15	38	6	22	72	**
共行動								
(11)	大学で文房具などを買に行く時、友人と一緒にいく	52	15	33	28	25	46	**
(4)	病院や美容室など、自分には用事がなくても友人につきあって一緒に行きあげる	68	15	17	9	10	81	**
貸借関係								
(5)	2人でカフェや映画に行ったとき、カフェは自分が払い、映画は友人が払う、というように順番におごりあう	83	9	9	27	22	51	**
(12)	食事をしたり映画を観たりしたときは、自分の分だけ払う	8	11	82	35	34	31	**
(18)	買い物をするとき、お金が足りなかったら1万円位借りてもよい	84	12	4	59	22	19	**
(24)	お互いにおごりたくて、レジの前で「自分がおごる!」と言い合う	89	9	2	50	33	17	**
(30)	友人に「生活費2ヶ月分程度のお金を貸して欲しい」と頼まれたら貸す	86	11	3	38	34	28	**
(34)	友人Aに何か頼まれたとき、友人Bの友人に頼んで、友人Aの願いを叶える	48	28	24	25	36	39	**
(39)	友人に何か頼まれたとき、自分にはできないと思ったら、その場で断る	14	14	72	14	24	62	
(43)	忙しくて本を買に行く時間がないとき、代わりに買いに行ってもらう	67	11	23	17	28	55	**
スキンシップ								
(9)	飲み物を1本のストローで一緒に飲む	57	20	23	40	21	39	*
(13)	友人が口を付けて飲んだカップで飲み物を飲む	17	17	66	13	23	65	
(19)	友人と腕を組んだり、肩を組んだりする	47	25	28	20	21	58	**
(25)	友人が顔を拭いたタオルで、自分も顔を拭く	85	8	8	36	31	33	**
(35)	友人のお尻をたたいたり、笑いながら腕をたたいたりする	44	24	32	16	20	65	**
(31)	ベッドが足りなかったとき、同じベッドで寝る	39	17	43	11	9	80	**
Note. a「あてはまらない」「ややあてはまらない」、b「どちらともいえない」、c「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した者の割合 (%)								

のなさ)、④積極的に相手に関与しようとする(「積極的関与」)、⑤一緒に行動しようとする(「共行動」)、⑥貸借関係を持つようとする(「貸借関係」)、⑦スキンシップをとろうとする(「スキンシップ」)、といった傾向がみられた。

ただし「共有」に関しては、「(6)友人が買ってきたお菓子を一緒に食べるときは、遠慮して少なめに食べ

る」では過半数以上の韓国大学生が「あてはまる」と回答していることから、必ずしも、「友人のものは自分のもの、自分のものは友人のもの」といった完全な共有意識を持っているわけではないと考えられる。本研究で「共有・遠慮のない関係」としてとらえた項目群は、礼儀をそれほど気にしなくてよいというノンポリイトネスの領域と考えた方がよい可能性もある。本研究では行

動のみを取り上げたが、その背景となる共有意識についても今後検討する必要があるだろう。

「率直さ」「かくしごと(壁)のなさ」「積極的関与」「共行動」「貸借関係」の領域では中国と日本を比較した結果と同様(山崎・張, 2009), 韓国の方が日本よりもそうした行動が多く行われていることが示唆された。また「スキンシップ」では、日本人学生は親しい友人同士でもあまり触れないのに対し、韓国人学生はボディタッチのほか、タオルやベッドの共有も日本人に比べると多かった。

これら複数の領域において、日本人学生の過半数以上が「しない」と回答している一方で、韓国人学生の過半数以上が「する」と回答している項目が多くあることから、友人関係を維持する方法の違いが異文化摩擦を生じさせる可能性が考えられる。例えば、「(21) つきあっていく上で、自分と合わないところを相手に伝えて、改善方法を探す」も同様の回答傾向となっている。長くつきあいたいからこそ、合わないところをなんとか伝えようとしても、日本人側がその本意に気づかず、拒絶傾向を示してしまったり、本意に気づいても感情的に受け入れられなかったりすることも考えられる。また、日本に滞在する韓国人や中国人が期待する友人関係を得られず、不満を持つなど異文化による摩擦や葛藤を経験する可能性もあるだろう。

本研究では調査対象者の数が比較的少ないほか、ランダムサンプリングを行っていないという問題があるものの、同様の項目を用いた山崎・張(2009)での日本人学生の結果と本研究の日本人学生の結果は比較的近似していることから、一定の信頼性はあると考えられる。今後は調査対象者を増やすとともに、日本、韓国、中国の3カ国間での相違点や共通点を検討することが課題として挙げられる。また、「率直さ」「かくしごと(壁)のなさ」といった領域の分け方や、領域と項目の対応についても多変量解析等により検討していく必要がある。また前述したように、本研究では行動に着目して調査を行ったが、今後は、行動の背景にある意識や価値観の違いについても検討していく必要があるだろう。

## 参考文献

- [1] Adams, G. & Plaut, V. C. (2003) The cultural grounding of personal relationship: Friendship in North American and West African worlds. *Personal Relationships*, 10, 333-347.
- [2] 金栄勲 (2010) 韓国人の作法 集英社
- [3] 朴侗玄 (2008) 韓国人を愛せますか? 講談社
- [4] 上原麻子・鄭加禎・坪井健 (2011) 日台中における大学生の友情観比較—「間主観性」概念の検討をもとに— 異文化間教育, 34, 120-135.

- [5] 山崎瑞紀・張日昇 (2009) 友人関係を維持する方法における日中文化比較 武蔵工業大学環境情報学部紀要, 10, 92-99.